

デング熱流行に関する注意喚起

1. デング熱とは

日本では馴染みのない名前の感染症ですが、マラリアと同様にアジアや太平洋諸島など熱帯亜熱帯地域に広く分布するウイルスによって引き起こされる感染症です。デング熱は流行する地域全体で年間約1億人の患者が発生しています。

マラリアと異なり、デング熱を媒介する蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ）は空き缶などに溜まった水や竹の切り株に溜まった水でも発生するために都会で流行することも多く、感染する危険性は高いと言えます。

2. シンガポールにおけるデング熱の発生状況

NEA（国家環境庁）の調べによると、シンガポールにおける本年第14週（3月31日－4月6日）のデング熱発生件数は409件となっており、流行期（epidemic level：1週間あたりの発生件数191件以上）の水準を6週間連続で超えています（図1）。

シンガポール政府公式HP（Campaign Against Dengue; <http://www.dengue.gov.sg/>）によると、デング熱の集団発生箇所（14日以内に半径150m以内の同一地区で2件以上デング熱が発生したケースを云う）は図2のとおりで、シンガポール東部で多発しています。

デング熱の発生箇所の詳細、発生件数等は、シンガポール政府公式HPにて最新情報が入手可能ですので、そちらも合わせてご参照ください。（Campaign Against Dengue; <http://www.dengue.gov.sg/>）

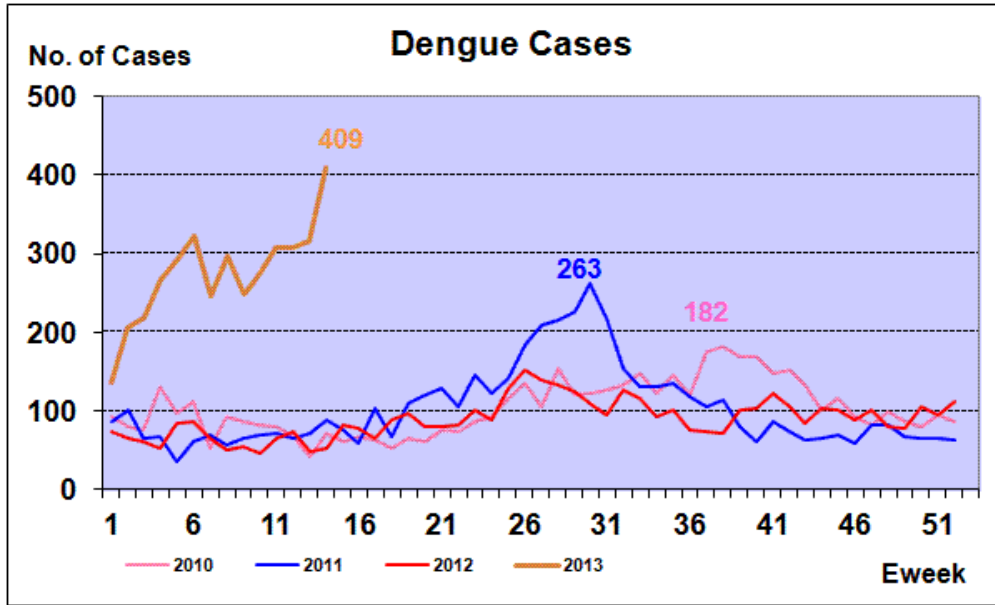
また、同HPによると、本年のデング熱の流行は、当地で一般的でないDengue Serotype 1（DEN-1）ウイルスによる感染の増加と関連がある可能性があるとしており、同ウイルスによる感染リスクの高い以下の9地区の住民に対して、最低限週に一度家庭内に溜まり水が放置されていないかチェックするといった対策を講じるよう注意喚起が発出されていますので、該当地区にお住まいの方は同対策を講じるとともに下記3.（4）に示された予防方法をよくご確認いただき特にご注意ください。

Campaign Against DengueのHPでDEN-1ウイルスによる感染のリスクが高いとされた地区

- [Jurong West Ave 1 / Jurong West Street 51](#)
- [Fernvale Road / Fernvale Link](#)
- [Lorong 5 Toa Payoh / Lorong 7 Toa Payoh](#)
- [Claymore Hill](#)
- [River Valley Close / River Valley Road](#)
- [Serangoon Road](#)
- [Bedok Reservoir Road](#)

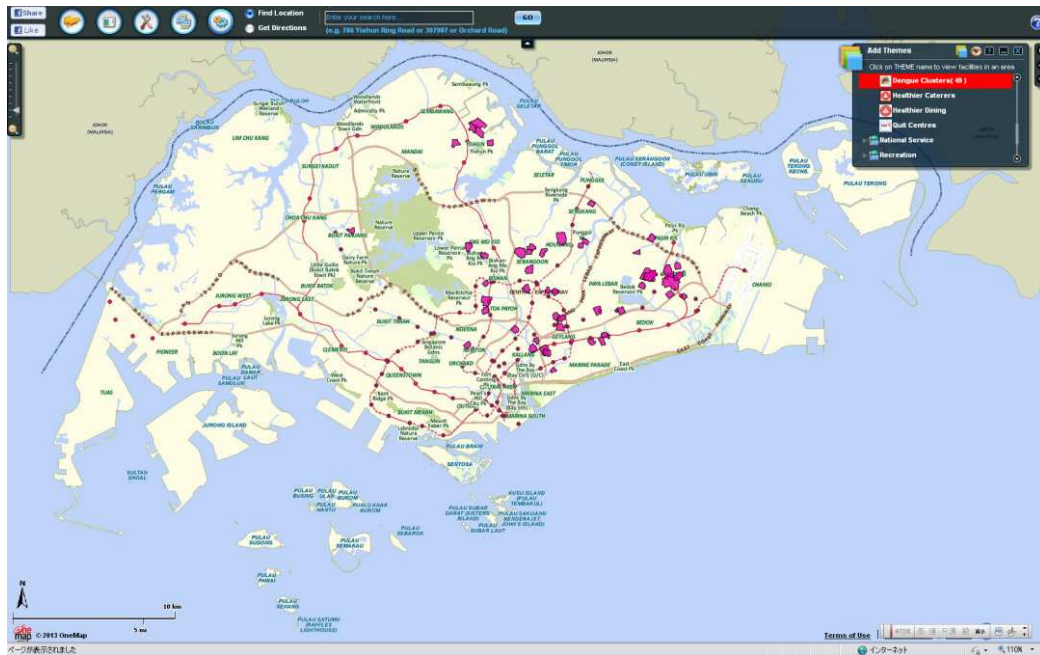
- [Lorong 6, 8, 10, 12 Geylang](#)
- [Lorong 22, 24, 24A, 26, 28, 30, 32 Geylang](#)

図 1 週別デング熱の発生状況



資料出所：シンガポール政府公式HP（Campaign Against Dengue）

図 2 2013年のデング熱の集団発生箇所（2013年4月8日現在）



資料出所：シンガポール政府公式HP（Campaign Against Dengue）

※ 同HPにて拡大図を確認することが可能

3. デング熱の概要

(1) 感染源

デング熱はデングウイルス（フラビウイルス属で1～4型までである）を持つ蚊（ネッタイシマカ、ヒトスジシマカなど）に刺されることで感染します。感染は必ず蚊が媒介し、人から人への直接感染はありません。一度かかると免疫ができますが、異なった型のデングウイルスに感染した場合は再発症します。

デング熱を媒介する蚊の活動はマラリアを媒介するハマダラカと異なり、夜明け少し前から日暮れまでの間（特に朝と夕方）です。

(2) 症状

3～15日（通常5～6日）の潜伏期を経て、突然の発熱で始まります。38～40度程度の熱が5～7日間続き、激しい頭痛、眼窩後部痛、関節痛、筋肉痛、発疹を伴います。この発疹は風疹と同じような小さな紅斑で、かゆみや痛みはありません。また、発熱期の後期や解熱後に軽い皮下出血が足や脇の下、手のひらなどに現れます。通常、症状が現れてから自然軽快するまでの期間は7日間前後です。

(3) 治療方法

デング熱には特効薬がなく、一般に対症療法が行われます。特別な治療を行わなくても重症に至らない場合が多く、死亡率は1パーセント以下であると言われています。ただし、時折デング出血熱という重篤な病気に至ることがあります。デング出血熱は、口や鼻等の粘膜からの出血を伴い、死亡率の低いデング熱と異なり、通常でも10パーセント前後、適切な手当がなされない場合には、40～50パーセントが死亡すると言われています。

出血熱は発熱して2～7日してから発症することが多いようですが、デング熱にかかった人がデング出血熱になるかどうかは事前に予測ができません（大人よりも小児に多発する傾向があります）。発熱が3日以上続いた場合は、医療機関への受診をお勧めします。また、デング熱感染が疑われる場合には、鎮痛解熱剤にはアセトアミノフェンを使用し、アスピリン系の使用は避けてください。

(4) 予防方法

デング熱には予防接種も予防薬もなく、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法です。デング熱発生地域に旅行を予定されている方は、デング熱を媒介するネッタイシマカ、ヒトスジシマカ等は古タイヤの溝などのわずかな水たまりで繁殖するため都市部でも多くみられることを念頭に置き、次の点に十分注意の上、感染の予防に努めてください。

- 外出する際には長袖シャツ・長ズボンなどの着用により肌の露出を少なくし、肌の

露出した部分には昆虫忌避剤（虫除けスプレー等）を2～3時間おきに塗布する。

- 室内においても、電気蚊取り器、蚊取り線香や殺虫剤、蚊帳（かや）等を効果的に使用する。
- 規則正しい生活と十分な睡眠、栄養をとることで抵抗力をつける。
- 突然の高熱や頭痛、関節痛や筋肉痛、発疹等が現れた場合には、デング熱を疑って、直ちに専門医師の診断を受ける。

4. お問い合わせ先：

- シンガポール政府公式HP（Campaign against Dengue）直通問い合わせ先

Hotline: 1800-X-DENGUE (1800-933 6483)

Email: dengue@nea.gov.sg

- 在シンガポール日本国大使館

住所：16 Nassim Road, Singapore 258390

代表：6235-8855

5. 参考情報：

FORTH/厚生労働省検疫所「デング熱」

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name33.html>

国立感染症研究所「デングウイルス感染症情報」

<http://www0.nih.go.jp/vir1/NVL/dengue.htm>

Campaign against Dengue（シンガポール政府公式HP（英語））

<http://www.dengue.gov.sg/>